て、そのあ[illegible]政党のあらゆる[illegible]資本主義追随の御用党である。

今や吾人東京聯合会は合[illegible]会[illegible]に加入せられたる一切の大衆党本部の指導に対して敢然と之に反対し総聯合会をあげて全国労農大衆党の支持取消を声明す。

然して今吾等は飽く迄も真実なる労農大衆の戦線統一を望んで止まぬものであるが故に彼等が今迄の一切の不信と過誤を精算し真の戦線の統一に邁進せんことを希望するものである。

茲に吾が聯合会は他の聯合会に后れたりとは雖も、協力、真の労農大衆の希望と真意を代表する実力的にして我が国情に即したる、即ち愛[illegible]健やかなる新党樹立に向って一路邁進せんことを併せて声明するものである。

右声明す。

昭和七年一月十三日

日本労働組合総聯合会

東京聯合会

実に吾が総聯合が、七年余支持協力し来った大衆党に対して、遂に一人も余すことなく実に満潮の引くが如く、昭和七年一月十三日を以って大衆党に支持取消の引導を渡したのである。後数次の協議の結果、

斯くて国家主義、新日本の建設、天皇政治の徹底、国家統制経済、等数項の目標を定めた。

かくて必然的に新党に対する準備は進められた。時に、海員組合は、時こそ無産党が打って一丸となり大合同すべきであると、諸方面に対して、非公式なる了解運動を開始した。吾総聯合は、国家主義的立場に於ける将来の運動の動行なれば、進んで、海員組合の運動に賛意を表すべきであって、幸ひ海員組合も、無論日本の運動は、殊に無産政党運動こそは、国家主義の立場に於てなされなければならぬと云ふ、明確なる意見であった故、海員組合の此時の無産党の大合同達には、満腔の賛意を表し、海員組合の浜田国太郎氏と、下中弥三郎氏、政治部長高木久藏氏会見し相互の充分なる了解を遂げたが、当時大衆党の麻生氏等の一派の反対に依って此の合同運動は蹂躙されて仕舞ったのである。

吾が政治部は、当然、独自の立場に於て、直往邁進すべく

新党に対する準備は進められ無産運動に対して常に厚意あり且つ総聯合として深き関係にあった下中氏、佐々井氏等又京都の神田氏中谷氏等愛國勤労党の天野氏中谷氏中原氏等と種々懇談を進め協力一月十七日の準備会に参加し日本國民社